

大命下る！

皇紀二千六百五十六年（平成八年）四月吉日、私に総司令部より封書が届いた。中には今年度に於ける決戦（組会）配備と作戦要項を定めた一機密作戦命令書第二十四号一があつた。



登山組會

組員は、来る十一月十三日、山梨県
大和村、黒岳山麓に集結し以下の任務
を遂行すべし。

一、湯の沢峠より黒岳方面へ向かう
寺崎 大元帥閣下と合流せよ。

二、途中の草場の広場に野営せよ。

三、宴を行い大量の酒を攝取せよ。

私は、読み終えると思わず武者震い
した。（ああ俺は組員無上の名譽ある
任務を受けた。この大作戦は死んでも
全うしなければ成らぬ。）帝都は春の
気配を次第に濃くしつつある一日であ
つた。

十一月二十三日一五三〇時焼山沢
林道終点、湯の沢峠直下の避難小屋前
広場到着。既に皇軍報道班（沢海さん）
が集結していた。「いかがな日本G.I.」
で歩兵として登らねばならぬのだ。騎
兵の生命たる明石産の名馬（GP.Z4
〇〇改）より下馬し立ち上がつた。
みよー凜然たるこの雄姿を！道は遠く
(たつたの一時間) 背嚢は重く(荷の
半分は糧食と酒?) 暮の地は高い(標
高千八百m位)。果して幾人が酒を飲
み過ぎないで生きて帰つて来るのだろう?
こくも寺崎大元帥閣下がまします。
「擣げ刀！」。(丁度下山し、車を待
つていた中高年登山者達に「バツカじ
やないの」、という顔で見られた。)



発行所 寺崎組新聞社

さて、この辺が白谷丸なのだがと、思つてゐるど、どこからかともなくローレライの歌声が・・・。いや、これは醉金こと金子氏の歌声だ! 誘われる様に声の方に引き寄せられると見えた! 、眼下のすすきの原の中から黄色い天幕が姿を見せた。

ああ天照大神も御覧あれ! 天祐神助とはこの事か。寺崎元帥と会見の白谷丸何処。

下山者達が皆、口を揃えて「白谷丸の辺りで奇妙な声を聞いた。」と言う証言に力を得て、衆々と登山道を進む。今しも、うつすらと霧が流れ始めると、みると谷を埋め、下から上へと濃く成ってきた。



最敬礼! レキの軍刀（ストックの事）が夕日に輝いて（沢海氏のストロボの事）忠烈の魂とおう。これを迎える將卒は、私の心中を察して涙をこぼす者も居た・・かな?。(脇の二時から飲んだくれて居た組員達は既に酔っぱらって居たのである。そのままその夜は阿鼻叫喚地獄絵図中島みゆきや陛下の玉音放送。酔つた頭の中を「山ゆかば酒漬く屍」と言うフレーズが、ついでに歌ひだされた・・。美辞麗句に粉飾されど、内容は空虚な追憶) は大本営発表の常なり。

以上独断と偏見に基書きをしました。
もちろん人によつて感じ方は違つて
ると思いますので、あくまで参考程度
に考えて下さい。

A black and white line drawing of a circular container with a handle, labeled "Raid". The container has a textured surface and a small opening at the bottom center.

やつぱり役に立たない
オーストラリアの強盗。警察を逃れるため、
十九世紀にオーストラリアで起きた強盗事件。
その強盗の名前がオーストランジャー。
オーストランジャーは強盗のことを指す言葉。

最後に彼はこう言い残した。 Such is life (人生とはこんなもんや)。

- Captain Thunderbolt (1836~70) N.S.W州各所に出没、強盗を働くいたが一度も人を殺さなかつた。元騎手であつたため、常に騎馬警察隊を逃れることができた。1870年、馬が撃たれて落馬し射殺された。彼の銃には弾が込められていなかつたといふ。

森本勉編
大修館書店
by J·King



平成八年度寺崎組宴会会地

岐近く
（つもの場所・つだい・トセナオ）
一月八日正午集合
静岡県富士宮市身延線富士吉駅北

「原稿大募集集の お知らせ」

新聞講読料振り込み先

卷之三

住所
名
テ

卷之三

東京都国分寺市東元町
スタジオエッグ寺崎組
組新聞講読料／年間・二千円以上

草原、遙かなり。

力なり

十、水没
ゴロゴロの岩道を下ると谷間の平地に出た。テューア川に沿う本道かと思われたが、まだ支流だという。テューア川は北のハンガイ山脈から、南のバヤノゴレの町へと流れている。

ようやく本流に出た。そこにあつたゲルで、また長い一服が始まつた。通訳氏も運転手も行つた事の無い道、常に道の情報が知りたいのである。雪融け水で、そこそこで道が寸断されているとの事である。渡れるのか渡れないのか、とりあえず行って、見て、判断するしかないではないか。

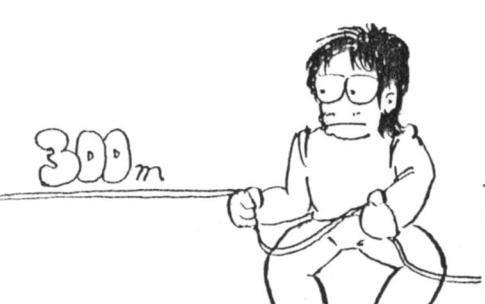
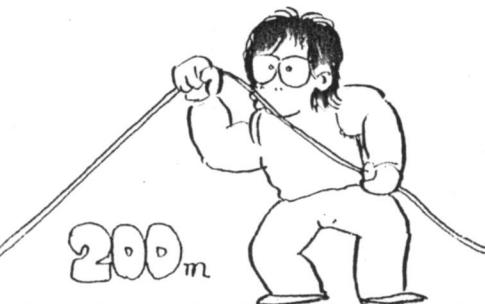
ば良かつたと思つてももう遅かつた。
スピードオーバーでルートをはずし、
前輪から水中に没して行つた。湯本隊
員の運命やいかに。（次号に続く）

野口ブライダル
大ドキュメント



てらちゃん せんき
くわ! J-king

START FROM 小泉莊



左は野口氏の父、中は谷モータースの社長、右は私。すぐ隣
は「スカイ・ガーデン」のオーナーの夫、山本さん



私も一言御挨拶申し上げ、モンゴルでの蛮行を語るが誰も聞いてやしない。おまけに私のワイシャツの衿がピロンと背広からはみ出しているにもかかわらず、一言も教えてくれない親切な庄司工務店の御曹司だったりするわけで。後はクソババアのカラオケや専修大学山岳部OBの裸踊りなどそれなりに盛り上がって3時間の披露宴は終わるわけだが、それだけでは終わらないのでありました。

2次会というものが待っていたのであります。窮屈な礼服を「楓の間」に脱ぎ捨てた二人は一服こき「さあて仕

夜中の3時頃、二人が寝入った部屋にベロンベロンの野口氏が襲つて来たのです。気付いてしまった私ですが寝入ったフリを決め込みます。「なんだあ寝ちゃったのかあ」そりや寝る時間だ。うかつにも瞼を動かしてしまった私ですが、酔っ払いをだますのはわけもありません。私の寝姿を写真に撮りやがり、うかつにも起きてしまった御曹司を拉致しドタバタと部屋を出て行く野口氏だったのであります。

そういうわけで、めでたい結婚式はめでたく終わるわけです。どうかお幸せにというわけだが、本当の2次会は新婚アツアツ家庭おじやまキャンプで決着を付けようと思っている私なのである

ヤレヤレと思つて、モンゴル人の乗つたイーチがやつて來た。搾りたてのヤクの乳を飲めと言つてゐるらしい。もちろん沸かしてなどいらないらしいし、川で冷やしただけらしい。こういう役目は平松隊員と決つてゐる。5リットルぐらい入るアルミの罐から直接飲む。ヤクの毛は多少浮いてゐるもの、冷えていて旨いらしい。私も挑戦する。チチ臭いと言つてしまえばそれまでだが、昔懐かしい牛乳の味がする。

それにしても、モンゴル人が乗つて来たイーチのイヤがすごかつた。途中でパターンが変わつてゐるのだ。裂けたイヤを修理したらしいのだが、違うイヤを切つて張り合わせてゐるのだ。物が無いからなのだろうけど、物を大切にし物が無いなりにどうにかし

十、水没
ゴロゴロの岩道を下ると谷間の平地に出た。テューラ川に沿う本道かと思われたが、まだ支流だという。テューラ川は北のハンガイ山脈から、南のバヤンホンゴルの町へと流れている。本流へと向かう道の途中、突然現れた急カーブで柳沢隊員がハイサイドをくらって転倒。この人はどうも走りにムラがある。昨日の、温泉に向かうワインディングでは驚くほどハイペースでついて来たかと思うと川の中で転倒したりしている。

昼食後、柳沢隊員と山本隊員に荷物の積み直しを命じる。積む位置が悪いのと、内容物の重心がバラバラなため走行中のバランスを崩しやすいのだと思われる。左右の重量バランスを考えて内容物を詰め直し、荷物を体に近い位置に積み直す。

の地形には馬が一番合っているようである。馬のガソリンはそこら中に生えているのだし、燃料に困る事もないのだ。
渡る前に、私が歩いて川の中に入り水圧とルートを確認する。川幅は約十メートル。ルートは轍に沿って真っ直ぐ最初は波を立てないようにゆっくり進入し、イヤが振られたり水圧でよろけたりしたらスロットルはワイドオーブンだと教える。
まずは私、バイクで渡ると思った以上に水圧がかかりドキリとさせられる場面もあったが何とか渡り切る。心配した柳沢隊員も、両足をバタバタさせながら無事渡った。

氏も運転手も行った事の無い道、常に道の情報が知りたいのである。雪融け水で、そこここで道が寸断されているとの事である。渡れるのか渡れないのか、とりあえず行つて、見て、判断するしかないではないか。

ゲル集落を過ぎると、道はいきなり川に消えていた。最初に伴走車のランドクルーザープラドが渡る。タイヤの上ほど、約1メートル弱の水深である。バイクだとエンジンの上まで浸かる深度である。氷が浮かぶ流れも速く、多少の危険を伴う。他ルートを探すが水深は似たようなもの、そのルートが車の轍がある分、水中の地面が一番安定しているようである。

ルート探しをしている間、馬に乗つたり歩いたりしてモンゴル人の子供達が集まつて来る。これ見よがしに川を馬で渡つたりする子供もいる。モンゴル

時は元禄平成8年十一月十六日。その日は正に、あの野口オヤジ、宴会荒しとしてその名をはせる第162号野口雅弘氏の結婚式当日なのでありました。山梨県早川町の空はあくまでも青く、なかなか報われぬ人生を歩んでいた氏の結婚を祝福しているかのようであります。

早朝7時、愛車デリカにまたがり一路南を目指したのであります。東名高速をなぜか厚木で降り、某四駆用品屋で人に頼まれたジムニーのスタッドレスタイヤとランクルのチーンを調達する人の良い私であります。

そのまま川崎へ行き、フニリーに乗つて木更津へ向かえばいいものの、東大井の立会川駅前のオートバックスに向

まお幸地どうぞ。ああ我がたんれかた。お手をなんかつないじや
このこのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこの黒野B/

